



スタートに当たり

クラス替えがあるわけではないから、見慣れた顔と、住み慣れた？雰囲気でのスタートということになるが、それでも出席簿順の席に戻り、新しい教室で新しい生活を迎えることになる。昨年、新しいクラスが始まった時に「3つのこと」という通信を出した。もう一度、その骨格だけを引用してみよう。

*

一つは「日比谷の生活にしっかり取り組みなさい」ということ。新しいスタートを迎えるに当たって、自分にとって「日比谷の生活」とは何なのか、もう一度、素直に考えてみてほしい。(中略)

二つ目は「勉強」のこと。自分の「日比谷の生活」の中に「勉強」をうまくかつ強固に位置づけてほしい。(中略)

その際、「勉強」が先ずは一時間一時間の授業から成り立っていることに思いをいたし、「授業を大切に作るクラスになってほしい」というのが三つ目。(後略)

*

この思いは基本的に変わらないので、3年生向けにすこし付け加えておきたい。

先ず、一つ目であるが、多くの人にとって、合唱祭や体育祭は人生最後の経験となるはずである。文化祭に関しては、大学のサークルやゼミなどの活動を通して大学祭に参加する人もいるだろうが、これだけ大人数で演劇に取り組むのは、やはり最後の経験となる人が多いに違いない。若い君たちにはなかなか実感がわかないだろうが、これから君たちはたくさんの「人生最後」を経験することになる。例えば健康がそうだが、普段まったくその大切さに気づかずに過ごしながら、一度それを

失うと、改めてその大切さを認識させられるというものがたくさんある。日比谷の前期に予定されている生活は、そういった面をもっているのである。面倒くさくて厄介で…と書いていても、それが自分にとってどれだけ大切な経験だったか、いつか切実に認識する日がくるはずだ。その時、後悔することのないように、精一杯日比谷での時間を過ごしてほしいと思う。前期の充実した生活が、後期の飛躍的な伸長の鍵になっていることも実証されている。

二つ目、三つ目は言わずもがな。現役生にとっては、一時間一時間の授業を活用することが現役合格の大前提。そのことをしっかりと認識しよう。その授業が受験に関係ないからといって内職していても、結局は集中しきれないから、はかどらないし身につかない。むしろ自分ではやったつもりになっていても、その部分は穴だらけという状態になってしまい、本番の入試で足元をすくわれてしまうというのがオチである。

理系(文系)のつもりだったが最終的に文転(理転)したという生徒も毎年いる。現役の時も理系(文系)だったが、浪人して文転(理転)したという人もいる。今、目の前のこと(受験)だけにとらわれて、浅はかな自己判断から為すべきことを限定してしまうことは、大学入学後の学問にも影響してゆくに違いない。日比谷の伝統である教養主義を甘く見てはいけぬ。その3の伝統をきちんと受け継いだ人が、長い目で見た時、自分のやりたいことを実現し、さらにその世界で尊敬される存在となっていくのである。